

人間の安全保障におけるスポーツの重要性

スポーツは、多様な楽しみ方を通じて人生を豊かで健康に生き生きとしたものにでき、さまざまな垣根を越えて人々に連帯感をもたらすという意味で、人間の安全保障が目指す尊厳をもった人間の生につながるもので、また、スポーツを通じて健康、教育、社会包摂、平和などの開発目標の達成につなげることが可能であることから、その効果により、命・暮らし・尊厳という人間の安全保障の価値をもたらすことが可能です。

人間の安全保障のアプローチの実践を通じたJICAの貢献

JICAは、すべての人々が性別や社会的な立場などの制約を受けず、みんなが等しくスポーツを楽しめる平和な社会の実現を目指します。その実現に向け、「スポーツの開発」として、人々がスポーツに関わる機会を提供することを通じてスポーツへのアクセス向上を図ること、また「スポーツを通じた開発」として、スポーツを手段としながら健康増進、人材育成、障害者・女性などの社会包摂や平和の構築を推進することにより、人々を脅威から守るための上からの「保護」と人々が自発的に選択する力を強める下からの「エンパワメント」に取り組みます。

- ・ スポーツの普及・強化や、政策・制度などソフト、施設・用具などハード双方のインフラ整備を通じて、スポーツへのアクセスを確保しつつ、人々がスポーツを楽しむ機会を拡充していきます。
- ・ 幅広い年代の人々への運動機会の提供を通じて健康の維持・増進をもたらすとともに、学校体育や課外活動の整備を通じて開発途上国の次世代を担う人材を育成していきます。
- ・ 障害者や女性に対して一つの生きがい、かつ、自己肯定感を高める場としてスポーツへの参加機会を提供し、もって障害者や女性の社会参画を促進していきます。
- ・ スポーツを通じて人種や言語、宗教などさまざまな違いを乗り超えて人々を同じ場に集め、異なる立場の人々が一緒にスポーツをすることで相互理解を促進し平和の構築につなげていきます。

SDGsへの貢献



以下のSDGsゴールの達成に貢献します。

SDGsゴール3：あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

SDGsゴール4：すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

SDGsゴール5：ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女兒の能力強化を行う

SDGsゴール16：持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

事例

JICA海外協力隊の取組

90か国に累計5,000名を越える体育・スポーツ分野のJICA海外協力隊員を派遣

JICA海外協力隊では、1965年度の派遣開始当初から、柔道、水泳などスポーツ隊員が派遣され、体育及び28競技にわたり実績があります。協力隊員は現地の人々とともに生活し、草の根レベルで途上国が抱える課題の解決に貢献します。中でも「スポーツと開発」に係る協力は、多様な人々がスポーツを楽しむ機会の拡充や、スポーツを通じた障害者や女性の社会参画、子どもたちの非認知能力の向上などに貢献しながら、人間の安全保障が目指す尊厳をもった人間の生をもたらしていきます。



ルワンダの陸上競技クラブで現地選手・指導者への指導、人材の発掘と育成の支援を行なう林理紗隊員（陸上競技）。林さんは「スポーツは、明日を生きる希望になります。また、目標を設定し達成する経験は、子どもたちの将来の可能性を広げることに繋がります。」と語ります。